

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 霧丘 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

#### 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

#### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

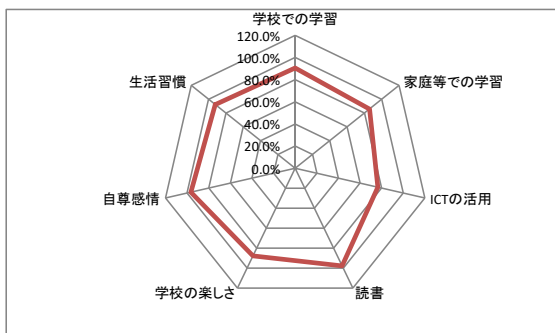
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に全国平均を下回っている。</li> <li>「読むこと」、「我が国の言語文化に関する事項」についての問題の平均正答率が全国平均に近い数値になっている。</li> <li>「情報の扱いに関する事項」、「書くこと」の問題での平均正答率が低くなっている。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う問題や、文脈に即して漢字を正しく書く問題はよくできていた。	
	努力が必要な問題	・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題や、表現の技法について理解する問題を苦手としている。	
数学	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に全国平均を下回っている。</li> <li>「図形」、「関数」、「記述式」の問題を苦手としているが、「データの活用」の問題は全国平均に近い正答率であった。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の問題を解く力、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力はよくついている。	
	努力が必要な問題	・問題場面における考察の対象を明確に捉える問題を特に苦手としている。	
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>「エネルギー」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域の正答率は全国平均に近い数値となっている。</li> <li>「生命」を柱とする領域の問題を苦手としている。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・「化学変化とエネルギー」を柱とする領域の問題、力の働きに関する問題については、ともに全国平均正答率を上回っている。	
	努力が必要な問題	・考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるか考える力が特に低くなっている。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校での学習はある程度高い。特に、読書の習慣は身に付いていることが分かる。</li> <li>道徳や進路学習の充実により、自尊感情が高まりつつある。今後も継続して学習活動を行っていく。</li> <li>家庭における学習習慣についての意識が非常に低いことが課題である。</li> <li>ICTの活用が低くなっている。これは、学校の通信環境が整っていない状況であったことが考えられる。通信環境を整え、積極的にICT機器を活用できるよう改善していきたい。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・自分の考えを上手に伝えることや、自分の考えを伝える文を書くことが苦手なため、話し合い活動を積極的に取り入れ、机間指導・丁寧な指導を心掛ける。
- ・基本的な計算問題や図形の問題が苦手なため、繰り返しの練習、問題解決するための話し合い活動の充実を図る。
- ・天気図や地層の問題を苦手としているため、ポイントを押さえられるよう反復練習し、丁寧な指導を心掛ける。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・朝読書の取り組みを行い、読書に対する意識をさらに高めていきたい。
- ・家庭学習への意識を高めるために、学習ノートの効果的な活用や、スマホの利用の仕方について、学習委委員会や健康委員会、生活委員会など、生徒会からも発信し、周知していきたい。